

厚生労働省科学研究費補助金（難治性疾患等克服研究事業）  
平成 29 年度分担研究報告書

皮膚の遺伝関連性希少難治性疾患群の網羅的研究  
研究項目：掌蹠角化症

研究分担者：米田耕造	大阪大谷大学薬学部臨床薬理学講座 教授
共同研究者：須賀康	順天堂大学医学部附属浦安病院皮膚科 教授
山本明美	旭川医科大学皮膚科 教授
秋山真志	名古屋大学医学部皮膚科 教授
金澤伸雄	和歌山県立医科大学皮膚科 准教授

### 研究要旨

本研究は本邦における掌蹠角化症の実態解明と新規薬物治療の開発を目指すものである。われわれはすでに過去先天性爪甲肥厚症の全国疫学調査を行い、その後引き続いて掌蹠角化症の診断基準と重症度分類を作成した。また掌蹠角化症の全国疫学調査も実施した。並行して、掌蹠角化症のうち重症度の高い掌蹠角化症症候群についてもその診断基準と重症度分類を作成した。今年度は、EBM の手法を用いて、掌蹠角化症ならびに掌蹠角化症症候群の治療について検討を加えた。

### A. 研究目的

掌蹠角化症とは、主として先天的素因により、手掌と足底の過角化を主な臨床症状とする一連の疾患群である。掌蹠角化症の特徴は症状が多彩なことである。掌蹠にのみ過角化が限局する狭義の掌蹠角化症以外に、掌蹠外の皮疹を伴う病型もある。臨床所見のみで病型を決定するのは困難な場合が多く、遺伝歴の詳細な聴取、患者病変皮膚の H.E.病理組織像の検討、最終的には遺伝子変異の同定が必要となることが多い。さらに掌蹠角化症の診断を困難にしている原因の 1 つにその病型が多数存在することをあげることが出来る。代表的な病型として、

Unna-Thost 型、Vörner 型、線状・円型などがある。しかし、それぞれの病型自体の患者数はそれ程多くはなく、診断基準の作成にあたっては、実際の皮膚科臨床の現場で役立つような診断基準を作成した。掌蹠角化症主要病型として、Unna-Thost 型、Vörner 型、線状・円型、点状掌蹠角化症、Meleda 病、長島型、指端断節性（Vohwinkel）、先天性爪甲肥厚症、Papillon-Lefèvre 症候群を選定した。Sybert 型、Greither 型、Gamboug-Nielson 型、Clouston 型、Naxos 病、Richner-Hanhart 症候群、貨幣状、限局型、常染色体劣性表皮融解性、食道癌を合併する掌蹠角化症、口囲角化を合併する掌蹠角

化症、指趾硬化型掌蹠角化症、皮膚脆弱症候群、眼瞼嚢腫と多毛を伴う掌蹠角化症、ミトコンドリア遺伝性神経性難聴を伴う掌蹠角化症などについては、特殊型とした。重症度分類については、過角化病変部の面積、紅斑、指趾の絞扼輪、爪変形の程度、発汗異常の程度によりスコア化を行い、その合計スコアにより、軽症、中等症、重症と分類することにした。この診断基準と重症度分類を用いることにより掌蹠角化症のより正確な診断が可能となった。そして細かい病型診断を、分子遺伝学的手法を用いて行うことにより、わが国における掌蹠角化症の実態解明が著しく前進することが期待された。

現在、掌蹠角化症ならびに掌蹠角化症症候群の皮膚過角化病変の治療法として、(1)レチノイド内服、(2)活性型ビタミン D<sub>3</sub> 軟膏外用、(3)サリチル酸ワセリン外用、(4)切削術、(5)siRNA 治療などが成書や文献に記載されている。EBM の手法を用いることにより、それぞれの治療法の有効性について検討を加えた。

## B. 研究方法

掌蹠角化症ならびに掌蹠角化症症候群の皮膚過角化病変の治療法として、(1)レチノイド内服、(2)活性型ビタミン D<sub>3</sub> 軟膏外用、(3)サリチル酸ワセリン外用、(4)切削術、(5)siRNA 治療などが成書に記載されている。それぞれの治療法に対して有効か否かのクリニカルクエスチョンの作成・文献渉猟を行った。

## C. 研究結果

上記の(1)～(5)のそれぞれの治療法について、推奨文ならびに推奨度を作成し終えた。

## D. 考察

今回われわれは、掌蹠角化症ならびに掌蹠角化症症候群の治療として、(1)レチノイド内服、(2)活性型ビタミン D<sub>3</sub> 軟膏外用、(3)サリチル酸ワセリン外用、(4)切削術、(5)siRNA 治療を選択し、クリニカルクエスチョンの作成、文献抽出、推奨文の作成を行った。

推奨度が A ないし B で、推奨文として有効であると、結論づけることができたのは、レチノイド内服のみであった。

これは、掌蹠角化症ならびに掌蹠角化症症候群が、ともに希少疾患群であり、システマティック・レビューやランダム化比較試験が行われた研究・論文がほとんどないことに起因していると思われる。

次世代シーケンサーを用いることにより掌蹠角化症罹患者における原因遺伝子変異を臨床の現場でも簡便に検出できる日が近いと考えられる。今回の研究成果をもとにして、掌蹠角化症のガイドライン策定が、待たれる。

## E. 結論

今回われわれは掌蹠角化症の皮膚病変の治療法に対して、EBM の手法を用いることにより、それぞれの治療法の有効性を検討した。今回の研究は、掌蹠角化症の日常診療のみならず将来の治療法開発にも非常に有益である。

## F. 健康危険情報

特になし

## G. 研究発表（平成 29 年度）

### 論文発表

英語論文

1. Nakai K, Yoneda K, Moriue J, Moriue T and Kubota Y: Hypokeratosis of multiple Bowen's disease of the palms. *Dermatol Sin* 35: 100-101, 2017
2. Nakai K, He Y-Y, Nishiyama F, Haba R, Kushida Y, Katsuki N, Moriue T, Yoneda K and Kubota Y: IL-17A induces heterogenous macrophages activation in the skin of mice. *Sci Rep* 2017 Sep 29; 7 (1):12473. doi: 10.1038/s41598-017-12756-y.
3. Yoneda K, Ishii N, Nakai K, Kubota Y and Hashimoto T: Localized nodular pemphigoid. *Int J Dermatol* 2018 Jan 10. doi: 10.1111/ijd.13889. [Epub ahead of print]

#### 学会発表

1. 米田耕造、坂本圭、金澤伸雄、須賀康、山本明美、秋山真志、橋本隆：掌蹠角化症ガイドライン作成にむけて、皮膚の遺伝関連性希少難治性疾患群の網羅的研究班平成 29 年度班会議、2017 年 9 月 15 日、東京
2. 米田耕造：ベバシズマブによる掌蹠の過角化病変、皮膚の遺伝関連性希少難治性疾患群の網羅的研究班平成 29 年度関西支部班会議、2018 年 2 月 5 日、大阪

#### H . 知的所有権の出願・登録状況（予定を含む）

特になし